

第1回 江別市本庁舎建設基本構想検討委員会会議録(要点筆記)

日 時: 令和4年7月14日(木)9:30~11:30

場 所: 江別市役所本庁舎2階 公室

出席委員: 小室晴陽委員、末富弘委員、田中淳一委員、藤本直樹委員、伊藤祥子委員、
伊藤留美子委員、井上義和委員、北川裕治委員、工藤祐三委員、神保順子委員、
日谷真維委員、星優子委員、松村昭二委員、鴨田啓治委員、西町なつみ委員
計15名

欠席委員: 0名

事務局: 野口総務部調整監、阿部総務部参事(庁舎耐震化担当)、上ノ山主査(庁舎耐震化担当)、
大久保主査(庁舎耐震化担当)

その他: ㈱ドーコン北條執行役員、中嶋主任技師、生沼主任技師、和田技師

傍聴者: 0名

会議概要

1 開会

2 委員の委嘱

三好市長から各委員へ委嘱状を交付

3 市長挨拶

4 委員の紹介

5 会長・会長代理の選任

委員の互選により、会長に末富委員、会長代理に小室委員を選出

6 検討委員会の目的及びスケジュールについて

事務局から検討委員会の目的、スケジュールについて説明

○藤本委員

この1年の基本構想検討後、市庁舎の検討がどのように進められるのか、今後、どのようにつながっていくのか、可能な範囲でお示しいただきたい。

○事務局

「市の基本的な考え方」の26ページに検討スケジュールを記載している。標準的なスケジュールとしては、今後、基本計画、基本設計、実施設計と進んでいく。

○田中委員

昨年、本庁舎等の整備に係る市の基本的な考え方を検討する際に、パブリックコメントと市民アンケートを実施している。基本構想の検討に当たってもパブリックコメントは実施する予定なのか。

昨年度の結果を活かした検討にするのであれば、パブリックコメントと市民アンケートの内容を委員の皆様にお配りすべきと思う。

○事務局

基本構想についてもパブリックコメントを実施する予定。本庁舎等の整備に係る市の基本的な考え方におけるパブリックコメントやアンケート結果についても参考資料として皆様にお配りしたい。

○田中委員

市庁舎の検討は市民の関心が高い。江別・野幌・大麻の3地区に愛される施設とすべきである。市民ワークショップはどのような形で実施するのか。

○事務局

開催場所は市民会館だが、参加者は全市民を対象に募集する。基本構想素案の説明会は3地区で実施する。

○北川委員

想定事業スケジュールを見ると、6年で検討が済み 2027 年に竣工できると考えて良いのか。

○事務局

順調に進めばそのようなスケジュールになると想定しているが、現時点では確定はしていない。

7 本庁舎等の整備に係る市に基本的な考え方の概要について

基本的な考え方の概要を事務局から説明

○伊藤留美子委員

水道庁舎は昭和57年建設で新耐震基準。本庁舎と比べるとまだまだ新しい。今の建物はどうする方針なのか。

○事務局

建物利用については現状では決まっていない。窓口のワンストップ化という観点で水道部門も集約したいと考えている。

8 検討項目

(1)新庁舎にあつたらよい機能、設備

○伊藤祥子委員

来庁者が複数の窓口を動かなくても、1か所で手続きが済むような形をお願いしたい。

エレベーターが無いと不便なので設置してほしい。

江別高校の跡地に建てられるので、バスでのアクセスについて配慮いただきたい。優先歩道の設置も考えられるのではないかな。

○伊藤留美子委員

親しまれる庁舎。建物がオープンで明るい雰囲気が良い。落ち着いたカフェなどもあれば良い。相談の合間に行けると良いと思う。

○井上委員

先日、岩見沢市役所に行ったが、とても明るく入りやすい雰囲気で、相談もしやすそうだった。行き来しやすい広い通路や多言語対応などを取り入れたら良いと思う。

○北川委員

ワンストップは欠かせないというのは共通認識。

市庁舎のニーズは時代によって変わっていくが、2万㎡の面積で50年使うと将来的に空きスペースが出来てくると考えられる。柔軟に転換できるようにしたら良いのではないかな。

○工藤委員

江別の特色を発揮できるような庁舎が良い。江別には4つの大学があり、何とか地元でもっと盛り上げたい。本庁舎に大学を紹介するコーナーがあれば良いと思う。

現庁舎を建設した時と現代は人口も職員数も違う。今は人口減少時代を見据えた本庁舎建設。2045年には江別の人口は9万3千人で少子化も進んでいる。

ICT対応などは大学からの皆様に協力いただければと思う。

○神保委員

用事は1か所で済むようにできると良いと思う。マイナンバーカードが普及したらそのようになることを望んでいる。

図書を受け渡しが出来たら良い、手数料を取らないようにしてほしい。

議会はオープンにして見学しやすいようにするなど市民が身近に感じる庁舎にしてほしい。

○日谷委員

先に確認しておきたいことは、災害に備えた備蓄倉庫や待合室の拡充、ユニバーサルレイアウトなどは取り入れる前提なのか。

○事務局

防災拠点に必要な備蓄倉庫やユニバーサルデザインなどについては、標準装備として入る前提と考えている。

○日谷委員

トイレを広くしてほしい。

展望ロビーやコワーキングスペース、乳児連れの来庁者のためのキッズスペースがあると良い。

駐車場から庁舎へのアプローチを検討してほしい。現在は、歩行者と車の動線が交差して危ないと思う。

○星委員

北広島市の新しい庁舎に行ったことがある。手続きが1か所で済むほか、案内が分かりやすいと感じた。現在の市庁舎では、別の窓口で同じことを話さなければならないことがあり、改善できればと思う。

展望ができて、カフェや食堂、ワークスペースなどもあれば良いと思う。

SDGs に配慮してリサイクルや再利用、ソーラー設備の設置など、できるだけ使えるものは使っていければ良いと考える。

○松村委員

市庁舎には障がい者用のトイレがあるが、仕様が統一されていないので、視覚障がい者にとっては使いにくい面がある。トイレは使いやすいものにしてほしい。

○鴨田委員

新庁舎の面積2万㎡を将来にわたって活用するためには柔軟性が必要。

男子トイレでもおむつ取り換えができるなど、若い子育て世代を支援するような設備が必要。高齢者への手厚い支援はあるが、若者への支援が見えにくいと思う。

環境にやさしいソーラー、非常用のエレベーターの設置など災害時の対策も必要。

市役所前までバスでアクセス可能にするなど、周辺の道路整備と合わせて庁舎整備をできればと思う。

野菜の直売所など出店できるスペースがあれば良いと思う。

○西町委員

授乳スペースがあったら良い。

漠然とした疑問がある人が、どこに行けばよいのか教えてくれるような案内があったら良い。

○田中委員

本庁舎には市民の安全を守る役割が求められる。災害対策本部は通常、災害が起こってからどこかの会議室につくるが、あらかじめスペースを確保できれば良い。

議場の使われ方は工夫が必要。使用しないときは、会議室として市民に開放している町もある。

来庁者に配慮した駐車場と建物のアクセスが必要。国道から右折して入る車のために、道路整備、交通計画を考慮してほしい。

○藤本委員

事務局にお願いするが、色々な意見が出された中で、次回新しい市役所の事例を示していただき

たい。道外や海外のものでも良い。

新しい庁舎は LGBT トイレの設置など、トランスジェンダーなどの方への配慮が求められる。今の時代に沿って、内面の複雑性にも対応できる工夫が必要。

市は情報化が遅れていると感じるので、利用者の目線だけでなく、市職員が快適に効率よく働ける環境についても踏み込んで議論していきたい。

○小室会長代理

皆さんの議論から見えてきたキーワードは、オープンであること。視覚的に通っている、連続性、眺望、カフェなど交流できる空間など、オープン性は機能的で快適な庁舎につながる。

2つ目のキーワードは、転用性、フレキシビリティを考慮すること。例えば、ロビーコンサートなど、時代に合わせた使い方ができるような庁舎が良い。固定的な部屋は必要だが、多目的利用できる部屋も重要。

3つ目のキーワードとして、多機能の良さを発揮できるようにしたい。8つの庁舎が1つになることは新庁舎の特徴になると思う。

○末富会長

ダイバーシティの実現に向けて、市庁舎が率先して対応していくのが重要。IoT や AI の活用ができると良い。

用事がある人だけでなく、用事が無い人が来て楽しめる庁舎であれば良いと思う。例えば、若者がスマホの使い方を高齢者に教えるなどの多世代交流につながる場や、コワーキングスペースの設置など、学生の起業支援などができれば良いと思う。

(2)来庁者が心地よい空間づくり

○伊藤祥子委員

北広島市の庁舎は、吹き抜けがあり、とても新しくオープンで快適だが、大声を出す方がいると声が筒抜けになってしまっており、防音性にも配慮が必要と感じた。

職員の方が働きやすい環境の面では、机が書類だらけ、ロッカーがないので足元にかばんを置いている。働く方が快適になると良いと思う。

窓口対応に当たる職員が、市民から見える自席で食事をせざるを得ない状況。来庁者も職員も気を使わなくて済むようなプライバシーの確保が必要だと思う。

○伊藤留美子委員

オープンな庁舎であること。窓口は狭いので、明るい雰囲気でも分かりやすい案内にしてほしい。多言語対応も必要だと思う。

○井上委員

議場の活用方法に工夫が必要ではないか。また、子供や高齢者の作品の展示空間などがエントランスにあると良い。

ベビーカーで出入りしやすいような空間作りが必要。

○北川委員

雪に閉ざされる期間が長く、風が強い街なので、自然光を取り入れた快適なアトリウム空間をイメージする。

○工藤委員

この項目では特になし

○神保委員

高齢者が右往左往しなくて済むように、ワンストップ対応してほしい。

機械に弱い高齢者のために、全てが機械ではなく、人間味のある対応を望みます。

○日谷委員

職員も来庁者もある程度のプライバシーの確保が必要。

内装、備品は地場産のものを使ってほしい。

若い世代のまちづくりへの参画が少ないので、市民活動団体の活動を紹介・アピールできるような展示スペースなどがあれば良いと思う。

○星委員

デジタル化を進めつつも、高齢者にとって分かりやすく安心できるような、人とコミュニケーションを取れるような場所があれば良いと思う。

○松村委員

専門的なことを聞くと時間がかかることがあるので、専門的な人がいると良いと思う。

○鴨田委員

プライバシーを保つ空間とオープンな空間の使い分けが重要。

働いている方が生き生きとしていると市民も元気になる。

○西町委員

職員が気持ちよく働けるようになると、市民も心地良いと思う。

○田中委員

市民活動の拠点となるスペースや子育て支援のスペースがあると良い。

長い期間で市民のニーズは変わるかもしれないのでフレキシビリティを持った空間。

○藤本委員

札幌学院大学の札幌キャンパスを見学した。心地よい空間にこだわると、ある面ではデメリット

も出てくるので難しい。例えば、全面窓では断熱性能やエネルギー効率が低下する。吹き抜けの場合、冷暖房コストが上昇する。将来世代を見据えて色々な視点でチェックしていくことが必要。見た目だけでは判断できない。あらゆる視点でチェックしていくべき。

○小室会長代理

来庁した市民がすぐに帰らないで、ついでに利用できるスペースがあると良い。カフェや食堂、ネットにつながり仕事ができる空間など、市民が滞在できるような工夫ができると良い。

はこだて未来大学のように視覚的にはガラスの壁でオープン化しつつも、ガラスを二重にして防音性を保つといった工夫もある。

○末富会長

人によって居心地の良さは異なるため、色々な人の意見を聞いてまとめてほしい。

世代間の交流を促進できる空間があれば良いと思う。我々の大学は起業したい学生が多い。身近なことで起業したい人がいるので、実際の経験者の話を聞きながらできると良いと思う。

(3)江別の魅力・江別らしさがつまった庁舎づくり

○伊藤祥子委員

江別産のレンガや道産の木材を使用した庁舎が良い。

江別の特産品を買えるスペースがあると良い。

○伊藤留美子委員

名古屋市役所はシャチホコが印象的。マスコットキャラ「えべちゅん」をデザインに取り入れるなど、江別らしさを出せないか。

○井上委員

江別は野菜でも有名なものがあるので、販売できる場所があれば良いと思う。道の駅を作ったら良いのではないか。

○北川委員

レンガを使ってほしい。

現庁舎跡は道の駅にして特産品を販売するなどしてはどうか。街の中心部に道の駅があるところもある。

○工藤委員

水道庁舎は昭和 57 年建設。統合する8施設の跡利用を検討すると思うが、有効な跡利用をお願いしたい。

○神保委員

お金がかかるかもしれないが、内装は道産の木材、使える部分にはレンガを使用してほしい。何十年も使うので北海道の素晴らしいものを使ってほしい。

○日谷委員

内装や備品は地場産材とすることや、江別の魅力を PR するためにレンガを使ってほしい。

○星委員

江別は協働のまちづくりをするにあたり動きやすい規模。一般市民が市民活動団体を認知できるように PR できる場所があると良い。

○松村委員

江別は石狩川と野幌原生林の自然が魅力。

生まれてこの方江別に住んでおり、市民会館が整備されたことをきっかけに演劇の取組がはじまった。新しいものができる若者が何かをやりたいという動きが出るのではないか。

○鴨田委員

野菜直売所など道の駅があると良いと思う。姉妹都市との情報交換もできると良い。全国に江別の魅力を発信できるようにすると良い。これらについて、江別市役所で情報が得られると良いと思う。

北海道には東京のようなアンテナショップがないので、できると良いと思う。

○西町委員

やはりレンガを使ってほしい。

○田中委員

江別の魅力を発信するスペースが必要。ICT 機器を使いながら取り組むことが考えられる。

ホームページの充実が必要。ホームページを変えた途端に移住者が増えた町もある。

○藤本委員

新しい庁舎が江別のシンボル、ランドマークになると期待している。国道の一本裏にできるので、跡地利用によっては国道12号から見えないことも考えられる。幹線道路から見えない建物だと勿体ないと思う。赤レンガテラスは道庁を視認できるように広場を設けている。

○小室委員

赤レンガの道庁も大改修しており、道庁の見え方が変わってきている。

国道12号からの視認性を高める視覚的な仕掛けが必要。

特産品の PR ができるショールームのような空間が必要。

○末富会長

今ある江別の魅力、江別らしさの反映に加え、将来の江別の魅力を創ることもできる庁舎になったら良いと思う。

(4)その他の意見

○井上委員

無理かもしれないが、石狩振興局を隣に持ってきたら良いと思う。

○鴨田委員

防災に強い庁舎を建てないといけない。災害時対応にあたる職員の休憩スペースも必要。防災機能に関してしっかり整えてほしい。

○田中委員

PFI と従来方式で検討していたが、今回の検討は従来方式を前提に進めた方が良い。PFI の場合、企業の方針次第で、今回の議論が根底から覆ってしまう場合もある。PFI の可能性は残しつつも、従来方式が良いと方向性をつけておいた方が良い。

○事務局

沢山の意見をいただき感謝申し上げます。次回以降の開催日程について、ご都合をお聞きした上で決定したい。

次回の開催前までに基本構想のたたき台を作成し、事前に送付するので、それを基にご議論いただきたい。

たたき台には、今回の委員会でいただいたご意見と、7月28日と7月30日に行う予定の市民ワークショップでのご意見を合わせて、たたき台を作りたいと考えている。

9 閉会